



忘れず確認! 
すぐ実行! 

営農プラスメモ

秋～冬の農作業
チェックリスト
1

肥料

春からの農作業に不可欠な肥料。コスト引き下げのために早期引取を行い、冬の間保管される方も多いでしょう。大切な肥料をしっかりと守るための保管方法や、荷崩れ・固結防止のためのポイントをまとめました。
今一度保管方法をチェックし、来春の営農に備えましょう。

チェックポイント	発生しうる問題や対応策など
肥料は、屋内で保管していますか？ ☐	●直射日光にさらすと、肥料袋・フレキシブルコンテナが劣化し、損傷の原因となることがあります。また、季節を問わず、ポリ袋内の空気の温度が上昇し、肥料袋が膨らんで荷崩れの原因となることがあります。 ●雨水の侵入があると、固結の原因となります。
やむを得ず屋外保管する場合、不透明のシートでカバーしていますか？ ☐	
下にパレットなどを敷いていますか？ ☐	直接地面に置くと、肥料袋の損傷や、吸湿の原因となります。
幼児などの手の届かないところで保管していますか？ ☐	幼児等の手の届くところでの保管は、荷崩れによる人身事故や誤飲などの原因となります。
フレキシブルコンテナの片吊りはしていませんか？ ☐	フレキシブルコンテナの片吊りは、ベルト・ロープ切れの原因となります。
フォークリフトでフレキシブルコンテナを吊り上げる際、爪の部分に布やゴム等を巻いていますか？ ☐	フォークリフトの角ばった爪ではベルト・ロープとの摩擦によって切断の原因となります。
フレキシブルコンテナの底面を引きずらないように作業していますか？ ☐	フレキシブルコンテナを引きずると損傷の原因となります。
フレキシブルコンテナは2段積み以下とし、ひな壇積みとしていますか？ ☐	●多段積み・不安定な棒積みは、荷崩れの原因となります。 ●過度の荷重により、肥料が固まることがあります。

秋～冬の農作業
チェックリスト
2

ハウス(フィルム)の後片付けと 越冬使用時の注意点

来春また使用するハウスフィルムは、取り扱いや保管の仕方に注意が必要です。また、冬期間もハウスを使用する場合は、雪対策も必要となります。
下記を参考に適切な対策を講じ、ハウスフィルムやパイプハウスを長く使用できるようにしましょう。

ハウスフィルム撤去・保管時

チェックポイント	発生しうる問題や対応策など
フィルムは破れていませんか？ ☐	破れを見つけたら早めに補修テープで補修するようにしましょう。特に農ビは破れが走りやすいという特徴があります。
ハウスからフィルムをはがした後、野外にそのまま放置していませんか？ ☐	特に農POフィルムの場合、寒い日や短時間であっても、直射日光が当たると融着（フィルム同士がとけてくっつく）の原因となります。
ハウスの天井に巻き上げて保管する場合、遮光性のあるカバーをかけていますか？ ☐	
フィルムに土・水滴などが付着したままになっていませんか？ ☐	水滴は融着の原因ともなります。また、フィルムが白く濁ったり、傷ついたりするだけではなく、防曇性や防霧性などの性能低下も招く恐れがあります。
フィルムはきれいにたたんで屋内にしまっていますか？ ☐	折りジワができて、ハウス内面に付着した水滴がボタ落ちする原因となります。

越冬ハウス使用時

チェックポイント	発生しうる問題や対応策など
ハウスのパイプと部品はきちんと接合されていますか？ ☐	左記がされていないと、場合によっては雪の荷重にハウスが耐えられず、破損してしまう原因となります。また、補強することで、ハウス全体の耐力アップにつながります。
ハウスに筋交パイプやタイバー、支柱などの補強はされていますか？ ☐	
ハウスの上や側に積もった雪はこまめに落としていますか？ ☐	

※上記の対応はフィルムやハウスの破損を完全に防止するものではありません。
※使用を終えた農ビ・農POなどは農業用廃プラスチックとして適正に処理しましょう。

ホームページはこちら

クリンテート（農POフィルム）取扱マニュアル、パイプハウス補強マニュアルは下記ホームページからご覧いただけます。
ホクレン資材情報 地平線.NET <http://www.shizai.hokuren.or.jp/>

灯油ホームタンクの点検

冬の生活や営農に不可欠な灯油。近年、ホームタンクからの油漏れによる事故が急増しています。

ひとたび事故が発生すると、土壤汚染や水質汚濁、農水産物への被害などの発生原因となったり、施設・住宅等の火災を引き起こす危険性があります。また、これらの事故はすべて所有者の責任となり、多額の賠償費用が発生したり、場合によっては法律により罰せられる場合もあります。

冬本番を間近に控え、今一度ホームタンクの点検をお願いします。

チェックポイント	発生しうる問題や対応策など
タンクはしっかりと固定されていますか？	☐ タンクの転倒による油漏れの恐れがあります。
市販のタンクを使用していますか？	☐ タンクローリーや他の危険物施設の再利用品の使用は危険です。
タンクのさびはひどくないですか？	☐ タンク破損による油漏れの原因となります。
油面計（ゲージ）は正常ですか？ 油の減りは早くありませんか？	☐ 油の減りが早い場合、タンクもしくは配管から油漏れが発生している可能性があります。
配管は安全ですか？	☐
タンク周囲に空地はありますか？	☐ 490ℓタンクではおおむね30cm以上、950ℓタンクでは1m以上の空き地が必要です。
納屋・格納庫などの建築物内にタンクを設置していませんか？	☐ 建築物内に設置する場合は、不燃材料のタンク室にし、窓・出入口は防火戸とする等の構造規制があります。
490ℓタンクを3基以上連結していませんか？	☐ 490ℓタンクの連結は2基までです。また、950ℓタンクは連結できません。
防油堤はありますか？	☐ 490ℓタンクを連結した場合や950ℓタンクの場合、タンクの周囲に油の流出を防ぐ防油堤等が必要です。
タンク設置にあたり、必要な届け出、および標識・掲示等を行っていますか？	☐ 個人の住居において燃料として使用する490ℓタンクを除き、消防署への届け出や、少量危険物貯蔵取扱所の標識・火気厳禁の掲示等が必要です。

※ホクレンSSではタンクの洗浄や交換を承っています。チェックリストで1つでもあてはまる項目があれば、最寄りのホクレンSSへご相談ください。

ホームページはこちら

燃料タンクチェックリストは、ウェブサイト「ホクレンSS E'NET」でもダウンロードいただけます。

ホクレンSS E'NET <http://www.hokuren-ss.jp/news/2010/06/post-7.html>

農業機械の点検

トラクターなどの農業機械を、長く安全に使用するためには、収納時にはもちろん、日常から基本的な保守点検を行うことが不可欠です。

こまめな点検により、大切な農業機械を上手に利用しましょう。

	チェックポイント	発生しうる問題や対応策など
エンジン・本体	燃料の漏れはありませんか？	☐ 故障や事故につながる恐れがあります。
	オイルの油量は適正ですか？ 漏れなどは発生していませんか？	☐ 燃費悪化や故障の原因となります。問題がなくても、オイル・フィルターは定期的に交換しましょう。
	エアクリーナーはきれいですか？	☐ 吸気量が減少し、燃費悪化や故障の原因となります。目詰まりがないか確認し、定期的な清掃・交換をしましょう。
	冷却水量は適正ですか？ 漏れなどは発生していませんか？	☐ エンジン故障の原因となります。適正な水量や、ラジエーターの詰まりも確認しましょう。
	ファンベルトの張りは適正ですか？ 亀裂などは入っていませんか？	☐ オーバーヒートの原因となります。ベルトの張りが十分に確認し、亀裂がある場合は交換しましょう。
	計器類・灯火・クラクション・ウィンカー等は正常に作動していますか？	☐ 故障や思わぬ事故の原因となることがあります。早目に整備工場等で点検を受けましょう。
動力伝達部	エンジンのかかり具合・排気色・動作音等に異常はありませんか？	☐
	ハンドル・ブレーキの操作に異常はありませんか？	☐ 走行中の事故につながる恐れがあります。異常がある場合は、早めに整備工場等で点検を受けましょう。
	ミッション・チェーンケース内のオイル量は適正ですか？	☐ ミッションの焼付や、摩擦の促進につながります。適正なオイル量を確保し、フィルタも定期的に交換しましょう。
走行系統	クラッチなどの動作状態に異常はありませんか？	☐ クラッチディスクの破損、ブレーキが効かなくなるなど、事故の原因となることがあります。異常を感じた場合は、整備工場等で点検を受けましょう。
	タイヤの空気圧は適正ですか？ 損傷はありませんか？	☐
	リム・ハブナットの緩みはありませんか？	☐ 空気圧が適正でないと、走行抵抗の増加や燃費の悪化、パンクの原因となります。日常点検で適正な空気圧を確認し、ナット類に緩みがないか確認しましょう。
	グリースニップルの給油状態は適切ですか？ 損傷はありませんか？	☐
作業機械装着系統	油圧3点装置に異常はありませんか？	☐
	けん引装置のピンはありますか？	☐ トラクターや作業機の故障及び事故の原因となります。破損がある場合は、修理・交換のうえ使用してください。
	PTO軸に損傷はありませんか？保護キャップはありますか？	☐
作業部・部品類	作業機の作用部に損傷や摩耗はありませんか？ ●ロータリー爪 ●ブラウの刃板・地側版・コールター ●ハローのディスク ●コンバインの刈刃 など	☐ 摩耗すると、作業精度が低下します。また、抵抗の増大により燃費悪化の原因となることがあります。研磨対応の場合は研磨を依頼しましょう。

※保守点検の内容は、機種によって相違があるため、各機種の取扱説明書を必ず参照の上、作業を行ってください。
※不良の原因や処置方法が分からない場合は、認定整備工場で点検・処置を受けてください。